

5. ご使用上の注意

■ 飲用時の一般的な注意

- 過度な摂取や体質によっては、胃腸に負担がかかる場合があります。飲みすぎに注意し、体調に応じてご利用ください。
- 飲み込む際はゆっくりと、誤嚥にご注意ください。特に高齢者・お子様・嚥下機能に不安のある方はご注意ください。
- 体調が優れない場合や、医師から飲食に制限のある方は、使用前に医師にご相談ください。

■ アイススラリー化（過冷却）について

- アイススラリー化（過冷却）の状態は、飲料の種類、糖度、配置場所、容器の形状、周囲の気温や直射日光などの環境、ドアの開閉頻度等により異なります。
- スポーツドリンクや経口補水液など、糖分を含む飲料は氷温下でも凍結せずにスラリー状になりやすい性質を持ちます。
- 糖分や炭酸を含まない飲料（水・お茶など）は、保管状態により完全に凍結する場合があります。
- 凍結した飲料の補償はいたしかねます。
- 一度凍結した飲料は、セラーに戻さないでください。液体に戻した後に再度セラーに入れても、スラリー状にならず凍結します。
- 設定温度を 0℃以下にする場合は、缶・瓶飲料を絶対に入れないでください。容器が破裂・破損するおそれがあります。
- 別途保管については、各飲料メーカーの規定を参照願います。

■ 熱中症対策としてご使用の際のお願い

- 熱中症対策として使用される場合は、使用環境に応じて早めに・容量に余裕をもって飲料を収納し、取り出すタイミングを調整してください。

本製品は、業務用の技術基準を満たした家庭用-5℃氷温冷蔵庫であり、アイススラリー専用機器ではありません。
製品の安全なご使用のため、必ず付属の取扱説明書をご確認ください。

氷温 M5 GX22SM525

アイススラリー 利用ガイド

本書は付属の取扱説明書を補助するものです。必ず取扱説明書も合わせてお読みください。

1. アイススラリーとは？

アイススラリーは、液体に微細な氷の粒が混じり合った、流動性のあるシャーベット状の飲料です。通常の冷水は、水そのものの冷たさ（顕熱）で熱を奪いますが、アイススラリーは氷が溶ける際に生じる「融解熱」を活用するため、冷水に比べて圧倒的に多くの熱を体内から効率よく奪い取ることができます。

| 熱中症リスクの低減 | パフォーマンス維持 | 災害リスクの低減 |
|-------------------------------------|--|---|
| 体内から直接冷却し、深部体温を下げることで熱中症のリスクを低減します。 | 限られた休憩時間内で効率よくクールダウン。身体の熱貯蔵量を増やし、暑熱環境下でも高いパフォーマンスをサポートします。 | 脳の温度上昇による認知機能・集中力の低下を抑制し、重大な労働災害のリスクを低減します。 |

■ アイススラリーができる仕組み

本製品は、飲料をマイナス温度に冷やしても凍らない「過冷却状態（液体の状態）」を作り出します。この状態を取り出し、容器を振ったり底を叩いたりして物理的な衝撃を加えることでスラリー状（シャーベット状）に変化します。

※ご注意：庫内で冷やしているだけで勝手にスラリー状（シャーベット状）になるわけではありません。

2. 本製品の特徴

- ワインや日本酒の品質を守るために開発した高度な温度制御技術を搭載。日本最大級の認証機関である JET（一般財団法人電気安全環境研究所）により、庫内の空気温度ではなく、液体温度がマイナス 5℃に到達することが認められています。
- 特許技術「セラーデフロスト制御」を搭載。複数のセンサーで庫内を管理し、霜取り運転時に発生する温度上昇を極限まで抑制します。
- 公益社団法人氷温協会から「氷温機器」として公的な認定を受けています。
- 家庭用サイズのセラーでありながら、主に業務用のショーケースなどが対象となる特定 電気用品（菱形 PSE）の技術基準に適合しています。

3. アイススラリーの作り方

市販のペットボトル飲料を使って、簡単にアイススラリーをお作りいただけます。

1

設定温度を -2°C ~ -5°C に設定する

コントロールパネルから温度を設定してください。
スポーツドリンク・経口補水液など糖分を含む飲料は、 -5°C が目安です。
水・お茶など糖分のない飲料は、 -2°C ~ -3°C を推奨します（完全凍結にご注意ください）。

2

庫内温度が設定温度に達したら、飲料を庫内に入れる

飲料は、庫内が設定温度に安定してからセットしてください。
常温から冷やす場合の冷却時間目安は、10~13 時間程度です（外気温・飲料の初期温度・本数により異なります）。早く冷やすために、冷却中はドアの開閉をなるべくお避けください。
なお、あらかじめ別の冷蔵庫等で冷やしておいた飲料をご使用いただくことで、冷却時間を短縮することができます。

3

庫内からゆっくりと飲料を取り出す

過冷却状態の飲料は振動の影響を受けやすいため、庫内からゆっくりと取り出してください。
※ご注意：他のボトルとぶつからないようにお気をつけください。

4

容器を振る、または叩くなどの衝撃を与える

取り出した後は、液温が上がる前に素早く容器を振るか、底面や側面を軽く叩いて衝撃を与えてください。中の液体がスラリー状（シャーベット状）に変化します。
※ご注意：容器を振る際は、周囲の人や物に当たらないように十分ご注意ください。

5

すぐに適量を飲用する

スラリー状態は時間が経つと溶けてしまいます。生成後はすぐにお飲みください。
適量を飲用し、飲みすぎにはご注意ください。

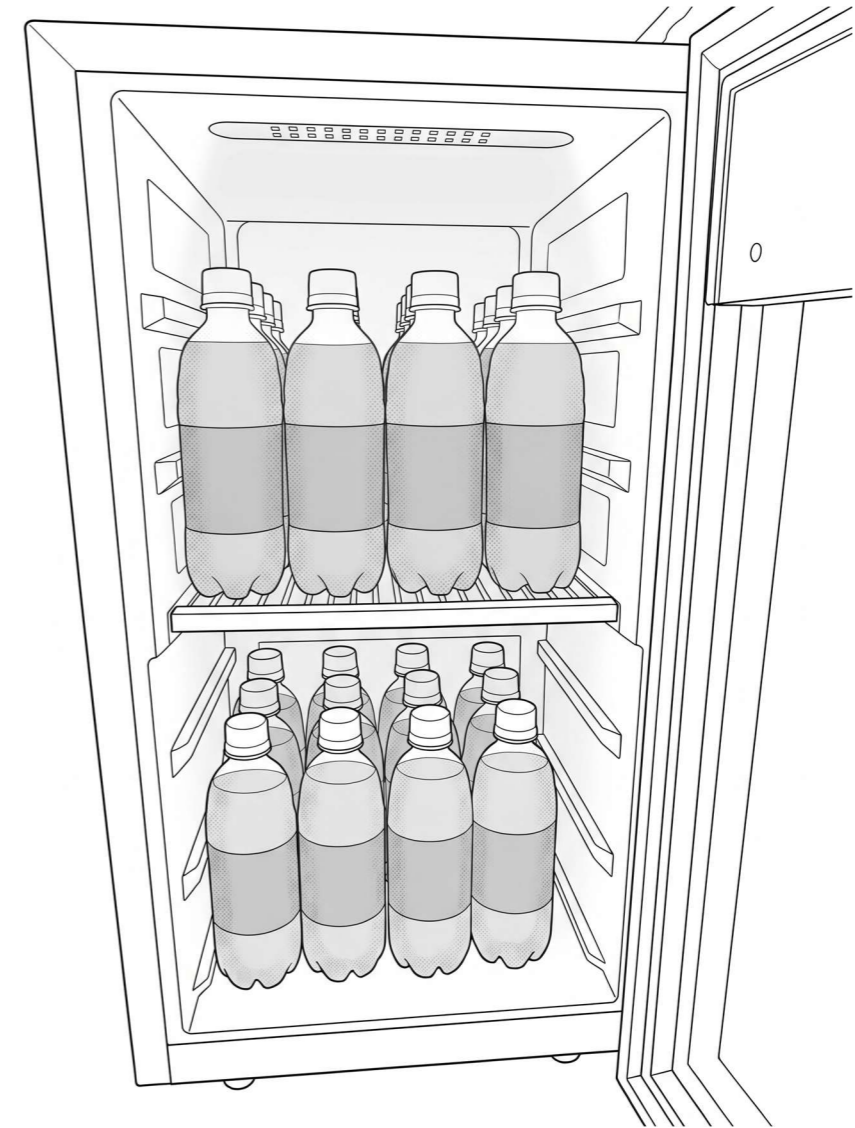
4. 飲料の入れ方（500ml ペットボトル）

本製品は、500ml ペットボトルを 28~32 本程度収納できます。

【推奨する収納方法】

上から 3 段目に棚を設置し、ペットボトルを立てて収納してください。ペットボトルを立てて保管することで、冷気がボトル全体に当たり、庫内全体で均一にスラリー化（過冷却状態）しやすくなります。

※ご注意：収納本数は、ボトル形状・ラベル厚み・配置方法等により変動します。



【500ml ペットボトル収納イメージ】